

さきがける 科学人

vol.54

コドプロス ディミトリス
Kontopoulos Dimitrios

日本科学未来館 科学コミュニケーター



プロフィール ギリシャ出身。アリストテレス大学で物理学・天文学を学ぶ。文部科学省の奨学金を受けて、2009年に大阪大学理学部に学士入学し、修士(宇宙地球科)を取得。12年より現職。趣味は日常で「美」を見つけること。

ギリシャ人物理学者、未来館で科学を演出

神社の色彩に魅せられ来日

昔から「美と冒険なくしては生きられない」気質なのです。ギリシャのアリストテレス大学で物理学を学んでいたある日、ふと手にした神社の写真に釘付けになりました。朱色の鳥居、青みを帯びた緑の瓦、境内を行きかう巫女さんの衣装。重苦しいギリシャの教会とはまったく違う、自然に近い神道の色彩に心を奪われました。

いったん興味を持つと、伝統ある京都の寺院から、原宿や渋谷の交差点のような乱雑なポップカルチャー、ファッションデザイナー山



来館者との会話から作品制作のヒントを得ることも。

本耀司が生む前衛的なファッションまで、日本に並び立つ異質で美しいものが次々と目に飛び込んできました。「収入の安定した公務員」という典型的なギリシャの成功者像を投げ打ち、刺激を求めて日本へ旅立ちました。

大阪大学で天文学を修めた後、未来館の科学コミュニケーターに就きました。科学を美しく描き出す仕事は、変化に富み刺激に満ちていました。映像や展示制作、世界中から来るアーティストや著名な科学者のイベント開催、テレビ出演、記事の執筆、海外出張など、さまざまな経験をしました。クリエイターとともに展示を制作する未来館だからこそ、挑戦できたのだと思います。

万物の理論をプラネタリウム映像に

最も思い入れがあるのは、4月に公開した3Dドーム映像作品「9次元からきた男」です。題材は専門の「万物の理論」。素粒子のミクロの世界をあらゆる理論と、宇宙のマクロの世界をあらゆる理論を統一する理論です。

宇宙はどのように誕生し、どこへ向かうのか。世界はどんな法則で成り立っているのか。そんな根源的な問いに人類は、ギリシャ時代の哲学者から最先端の巨大加速器による検証まで、3000年にもわたって挑戦してきたのです。こうした心躍る「知の冒険」のロマンも作品に込めました。

難しく抽象的になりすぎないように、理論物理学者の大栗博司先生の監修、ホラー映画界の第一人者である清水崇氏の演出で、時空間を自在に移動する男を追う科学者たちの物語として、実写とコンピューターグラフィックスを使って映像化しました。

この作品は6月に、プラネタリウム映像の国際フェスティバルで最優秀教育作品賞を受賞しました。これまでのプラネタリウム番組の概念を覆したことが、高く評価されたのです。

昨年の夏は生活のすべてを制作に捧げました。真夜中、仲間からの質問メールで起きることもたびたびありました。「無って何?」「素粒子ってどんな形?」。ギリシャ語ですら説明しづらい内容をおぼつかない日本語で懸命に説明しました。理論物理と格闘し、それを理解し表現しようとする仲間たちの力になると必死でした。

役者のオーディションや制作会社に泊まり込んでの作業、アフレコなど、どれも初めての経験ばかり。特に4日間で一気に取り組んだ撮影は過酷でした。朝8時からロケ地を回り、35度を超える暑さの中、屋外で撮影。汗だくで後片付けをした後も、未来館内で未明まで撮影は続きました。

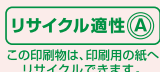
作品を初めて通して見た時、鳥肌が立ちました。お客さんの感情を揺さぶることができたなら、もう言うことはありません。

日本に来て7年。そろそろ冒険心がうずき始めました。来年ロンドンにオープンするサイエンスギャラリーのように、芸術で科学を美しく彩る試みが始まっています。美を創造する仕事を求め、どこまでも冒険は続きそうです。

(JST広報課・松山桃世)

日本科学未来館

日本科学未来館は、触れて楽しむことのできる展示を始め、実験教室やトークイベントなど多彩なメニューを通し、日々の素朴な疑問から最新テクノロジー、地球環境、宇宙の探求、生命の不思議まで、さまざまなスケールで科学技術の今を体験できます。科学の役割を問い直し、さまざまな分野の「知」を集め、地球の未来に貢献しています。 ●東京都江東区青海2-3-6 電話／03-3570-9151



古紙/パルプ配合率80%再生紙を使用

JSTnews

October 2016

発行日／平成28年10月7日
編集発行／国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
電話／03-5214-8404 FAX／03-5214-8432
E-mail／jstnews@jst.go.jp ホームページ／http://www.jst.go.jp
JSTnews／http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー